

反戦情報

2021・4・15 No.439

2001年2月9日第3種郵便物認可 第439号
2021年4月15日発行（毎月1回15日発行）

クーデター軍に立ち向うミャンマー民衆



(左) 国軍によるデモ隊への銃撃で犠牲となった19歳の女性チュー・シンさん（3月3日マンダレー）／(右) 広がる民衆の抗議デモ

〈巻頭言〉	
ミャンマー国軍 クーデターの背景	2
ヤウンニーウー学校の窓から見えるミャンマー	
〔焦点〕 一軍弾圧に抗し真の民主化に向け全勢力が結束へ 小武 正教	3
〈東京五輪問題〉	
八十路老人 自康下 五輪を思案する 高井 二千六	6
歓迎されざる東京五輪は中止すべきだ 今宮 憲一	8
〈福島から〉	
原発事故から10年、福島に住んで感じること 大川 清	10
〈書評〉	
『フクシマ事故と東京オリンピック—真実から目を逸らすことは犯罪』 佐藤 定夫	11
〈沖縄報告〉	
沖縄県は南部の土砂採掘を止める行政措置を！ 沖本 裕司	13
〈学術会議問題〉	
政府の圧力に屈さないよう学術会議を支えよう！ 小寺 隆幸	15
〈上関から〉	
上関原発いらない！ フクシマを忘れない！ 山口県上関町の中電準備事務所前で集会 三浦 翠	17
〈エッセイ〉	
「ガラパゴス」状態の日本のデモが暴政継続許す 豊島 耕一	18
〈歴史〉	
『アリランの歌』再考(6) 吉留 昭弘	20
〈映画の世界220〉	
『グッドナイト&グッドラック』 鈴木 右文	23



三、下部圖面

結論を先に言えば、スーチー政権下で拡大した民主化闘争の中でこれまで築いてきた国軍の支配・利権が脅かされたからだろう。初の民主的選挙となつた2001年の総選挙でNLDは改選議席の3分の2を獲得、圧勝した。軍政下の08年につくられた憲法には「配偶者や子が外国籍」なら大統領の資格がない（59条f項）といふ「スーセー排除条項」があるな

の、軍側に拒否され否決された。
しかし、20年11月の総選挙でNLDは改選議席の8割強を獲得して圧勝、スー・チー氏は改憲への強い意欲を表明していた。

クレーデターを強行したミン・アウン・フライン国軍最高司令官(写真)は7月には退役の予定で、軍にも改憲を阻止する必要があつたのだ。

〈卷頭言〉

ミヤンマー国軍 クーデターの背景

2月1日に突如引き起こされたミヤンマー国軍によるクーデター。アウンサン・スー・チー国家最高顧問やウイン・ミン大統領、国会議員など政権与党NLD（国民民主連盟）の指導者たちを拘束して全権を掌握、一部に戒厳令を敷き、抗議行動を拡大させる民衆への武力弾圧をエスカレートさせている。

まじく、デモに出た丸腰の民衆を狙撃、機銃を乱射し、バリケードに手榴弾まで使用する残虐・非道ぶり。果ては家屋に押し入って父親の眼前で7歳の子どもまで銃で撃ち殺したり、もはや人道意識の欠片もない。こうして罪なき市民が既に五百数十人以上、犠牲となつた（表紙写真参照）。

クーデター勢力はなぜ、こうして悪逆非道に打つてたのか？

か、同氏は「国家顧問」に就任、事実上の政府トップとして、民主化をすすめた。

だがそれを真に前進させるには、国軍の特権（例えば上下両院の25%が国軍最高司令官指名の軍人議席）を定めた08年憲法の改正が必要で、改憲には（議席数の）75%以上が必要となつていて、NLDPは20年にこうした軍の特権を削減する改憲案を国会に提出したもの

この国軍とズブズブの腐れ縁を保つてゐるのが中国と日本だ。

「この国軍とズブズブの腐れ縁を保つているのが中国と日本だ。」「一带一路」戦略を進める中国はインド洋に面する隣国ミャンマーを重視、同国経由の石油・天然ガスパイプラインが既に稼働している。1月には習近平主席が同国を訪問、33事業の推進で合意している。

一方、日本は、OECD（経済協力開発機構）加盟国中で最大のミャンマー援助国だ。400社以上の日系企業が「アジア最後のフロンティア」として経済特区などに進出、国軍関係の諸企業とも緊密な関係を築いているのだ。例えば、キリンホールディングスや丸紅、三菱商事、フジタやホテル・オーラ、JCBカードや三井住友銀行、みずほ銀行などがそれだ。さらにJICA（国際協力機構）やNTT、朝日新聞などもビジネス上の関係があるとの報道もある。中国や日本政府が悪逆非道なミャンマー国軍のクーデターを批判しない裏が透けて見える。

(編集部N)

ヤウンニーウー学校の窓から見えるミャンマー

一軍弾圧に抗し眞の民主化に向け全勢力が結束へー

小 武 正 教

●2月1日、ミャンマー軍がクーデター

2月1日、昨年11月に総選挙で当選した国会議員が初めて招集される日、ミャンマー軍はクーデターを起

こした。理由は昨年11月に行われた総選挙に不正があるというもの。

昨年の選挙は、国際選挙監視団がはいつており「概ね良好に選挙は行われた」と報告している。「選挙の不正」がデツチあげることは誰の目にもあきらかである。

選挙は201

5年の時の選挙
以上にスーザー

さん率いる国民
民主連盟(NLD)

D)が圧勝。新しい第2次スー

チー政権においては、軍が民政

移管となつても

自らの立場と権益を保持するためには、2008年憲法の

改正を目指すことを最大の課題とする

それにもとづいてある。今のこの時代に軍がクーデターを行い、クーデターに反対する無防備の市民に銃を向け殺傷行為を続けるとは。軍のクーデターに反対する市民は毎日、軍によつて殺された人、拘留された人、逮捕状が出された人の数をFBで公表している。

4月3日現在、殺された人557人、拘留された人2658人、逮捕状が出された人235人で毎日この数が増えている。

その時は軍政に対しミャンマーの僧侶が先頭に立ち、托鉢の時に用いられる鉢をふせ、当時の最高権力者・タンシユエ将軍に「あなたは間違つてい地獄に落ちる」といつてヤンゴンの大通りをお祈り行進したのであつた。その僧侶に対して軍は発砲し、200人以上の僧侶が殺され400人以上の僧侶が逮捕・拘留された。

「日本の僧侶・仏教徒のみなさんにも私たちに連帯してほしい」と日本語に訳されたメールがまわってきたのが9月の末、10月1日に急遽、原爆ドーム前での集会と、広島市内のデモ行進を行つた。その時、広島のアーネスティの紹介で愛知県から来て話をしてもらつたのがココラットさんである。

●ミャンマー民主化運動に連帯 2度目の原爆ドーム前集会



街頭展開するミャンマー国軍戦闘車（上）抗議する民衆

008年憲法の

私が直接ミャンマーの民主化運動に接したのは2007年9月のいわゆるサフラン革命の時からである。

あれから14年、今度は軍のクーデターに抗議して原爆ドーム前で集会をすることになるとはさすがに思わ

なかつた。しかし、ココラットさんは原爆ドーム前には今回はない。彼は2018年の夏、永年勤めていた会社を退職し、ミャンマーに拠点を移し、事業を起こしながら民主化に貢献すべく、ミャンマーで活動を始めたからである。

3月23日、原爆ドーム隣りのお寺を会場にした現地の報告にはオンラインで参加してくれた。その報告の時、ココラットさんはクーデター以後3カ所目の住居で、今この場所で軍によつて殺さ



れた人の名前や殺された時の状況を記録する役をしていると言つていた。さらにはCDM（不服従行動）による生活に困つている人、また元々貧しい人たちに食糧を配つているとも。

●今回の軍のクーデターに対抗する行動を「ビルマ21・春の革命」と名づけて報告

ココラットさんにオンライン講演を最初にしてもらつたのは3月13日。

その時のタイトルを彼は「ビルマ21・春の革命」としてほしいとメールしてきた。すでにその時ミャンマーの市民の人たちは、今回の軍のクーデターに対する反対行動を、「春の革命」と呼んでいたことが今になつてわかる。それは、市民の目指しているものは、2月1日のクーデター以前の状態に戻ることではなく、軍の立場・権益を保障した現憲法を廃止し、少数民族にも自治権を認める連邦共和国を実現することであり、そのことは3月31日

にミャンマー連邦議会代表委員会(CRPH)が発表した。

●ジャングルの中のヤウンニーウー学校という窓から見てきたミャンマーの民主化

サフラン革命が軍に弾圧され民主化活動が地下に潜伏させられる中、2008年2月から私はココラットさんと一緒に、タイとミャンマーの

国境にあるタイのメラウー難民キャンプのヤウンニーウー学校（日本語で「日の出」という意味）の支援に通い始めた。毎年2月に前後5日か6日間、日本・バンコク・チエンマイ・メラウーキャンプ2泊・チエンマイ・バンコク・日本の行程。とり

モン族・シャン族などの少数民族の子どもたちだつた。

1988年以後、学生たちは全ビルマ学生民主戦線として、ミャンマー軍に対峙してきたから、彼らにとつては少数民族は共に闘う同盟であり、ヤウンニーウーはその同朋の子どもたちでもあつた。既に、民族の垣根を超えた活動は、ここヤウンニーウー学校で20年以上まえからはじまつていたわけである。

2015年にスーチー政権が発足すると、ビルマ族と少数民族を繋ぎ和解にもつていく役割を彼らが担つていることを、学校運営の実質の責任者＝サラインさんの言動から感じていた。そして事実、彼らはミャンマー国内に入り、ヤンゴンに事務所をおいて活動を展開していたのである。そのサラインさんは今、タイのチエンマイで活動をしている。

●「2・1軍クーデター」はビルマの真の民主化最大のチャンス

実はその学校は、1988年の民主化運動にたちあがつた「ジェネレーションX」といわれる元学生たちが追われてたどり着き開いた学校だつた。当初は自分たちの子どものためとということであつたらしいが、学校レベルの高さを聞いて通つていたのは、私が行つた時は殆どがカレン族。

4月3日NHKのETV特集で2015年からスーチー政権で大統領顧問を務めたタン・ミン・ウーさん

が述べていたように、ミャンマーの問題は、135に渡る少数民族、その武装勢力に対して軍が対峙したことだという。さらには7割を占める仏教徒と少数のイスラム教徒・キリスト教徒という宗教の違いを巡る問題。それらが、軍がクーデターを起こしミャンマー市民を敵にすることで、今までのビルマ族対少数民族、仏教徒対イスラム教・キリスト教という対立の壁が崩れ、今、5500万人のミャンマー国民が、40万の軍（家族・親族含め500万）対9割以上のミャンマー国民の対立という構図になつている。

ココラットさんは「ミャンマー軍との戦闘行為を決して望まないとしながらも、少数民族の連邦軍の話がある」と教えてくれた。またロヒンギヤ殺害にても軍が行うことに対してビルマ族の市民が傍観していたことへ「反省・謝罪の声明」（第一医科大学学生連盟一同の過ちを認められる謝罪文）が出されるといったことも起こっている。「今まであり得なかつた少数民族とビルマ族の連帯、宗教を超えた連帯が生まれつづあるのが今のミャンマーだ」と。そして先に述べたCRPHの発表が

が述べていたように、ミャンマーの問題は、135に渡る少数民族、その武装勢力に対して軍が対峙したことだという。さらには7割を占める仏教徒と少数のイスラム教徒・キリスト教徒という宗教の違いを巡る問題。それらが、軍がクーデター

ミャンマーの真の平和への道を指示しているわけだと。

しかしその「ミャンマーの未来の姿」は、すでに私たちがメラウーキヤンプのヤウンニーウー学校で目にしたものではなかつたのかと今、思う。

4月14日には、ミャンマーの現地からココラットさんに3度目のオンライン現地報告をしてもらうことに

ことで、今までのビルマ族対少数民族、仏教徒対イスラム教・キリスト教という対立の壁が崩れ、今、5500万人のミャンマー国民が、40万の軍（家族・親族含め500万）対9割以上のミャンマー国民の対立と

なつている。状況はさうに厳しくなつてゐるかもしれない。でも彼がつけたテーマは「ビルマ（ミャンマー）平和への道—日本の皆さんへ」であつた。

●私たちの「自分」ととしてミャンマー市民にとつて世界の中で友好国はといえば、日本が67%で断トツ1位という結果が2月1日までの数字である。それが大きく揺らいでいる。

4月2日、ヒューマンライツナウ等の主催する院内集会で、「日本政

府はクーデターを起こした軍の側に立つか、私たち市民の側に立つか、あいまいなことしかいわない、軍

の資金となる援助をとめてほしい」、CRPHこそが正統な政府と認めでほしい」という在日ミャンマー人の声に、「今、注視している、検討中」を繰り返す外務省の職員に在日ミャンマー人は「大きな失望を感じる」と述べていた。

私も、日本政府がミャンマーの軍との関連で経済活動をしている一部の企業・人間に対する忖度で今曖昧

な立場をとつてゐるのではないかと、いう疑惑を持つてゐる。

日本の私たちが、デモの先頭に立ち命をかけて闘つてゐるミャンマーの若者、これから50年・100年先を担うであろう若者たちの訴えに耳を塞いでいては、日本がミャンマーと共にこれから未来を拓いていく道はないことだけはたしかである。

（おだけしきょう／広島県三次市西善寺住職／ミャンマー（ビルマ）市民の訴えを聞く会代表、メラウー難民キャンプ教育支援の会代表）

【筆者注】

※「ミャンマーを救え」FBで情報発信中。

<https://www.facebook.com/myanmer.save>

※国名をミャンマー（ビルマ）としているのは、1988年の民主化運動を進める世代では「ビルマBurma」を基本使うのですが、今の運動の中心を担つてゐるZ世代は「ミャンマー」を抵抗なく使つてゐるという」と述べました。



八十路老人自肃下 五輪を思案する

高井二千六

安倍前首相の虚言による誘致で始まった東京五輪は、以来、組織団体間の経費分担、マラソンコースをはじめとする競技場の設定、ロゴマークの選定、組織委員会トップの暴言と首のすげかえ等々の騒動悶着、さらには新型コロナウイルスによる大恐慌の明確な解決法の見えぬ3月下旬、聖火ランナーは福島をたつた。野党もマスコミも、その先には戒厳令が構えているという危機意識を国民に持たせぬまま、政権に緊急事態宣言を実施させてきた。国民の現実生活を軽視して、政治的な思惑や利権などをからめて開催されようとする五輪であつてはならぬ、と。それならこれまでの五輪はどうだつたのだろう、老人は思い巡らせてみた。

今、広島市議会で初めての政策条例となるであろう「平和推進条例」を制定しようとしている。その素案の前文に「『平和』とは世界中の核

兵器が廃絶され、かつ戦争その他の国際紛争がない状態」とある。祈る。願うことだけで核の廃絶が進まない、平和の道が拓けないことを明確にうたう条例とするために、たくさんのパブリックコメントが寄せられているようだ。五輪の起こりもそうだろう。心中で祈るだけで戦争はなくならない。相互の多くの兵士が勇気を出して武器を手放し、協和を成り立たせるべくスポーツを掲げ、その力と技を競い合う祭典を催していくこと。そうして、平和への基点が作られていくのだ。しかも当初の五輪開催の理念は実に明解だった。一つ、参加することに意義がある。一つ、競技の勝者は個人として称えられる。

●ベルリン大会——理念が大きく変容する

1936年ベルリン五輪は、ナチス・ドイツによる国家総動員体制の産物だった。壮大な競技場の設営、大仰な開会式の演出などで国威発揚を示し、「ゲルマン民族ファースト」を謳い上げて諸外国へ大アピールし、

ス・ドイツによる國家総動員体制の産物だった。壮大な競技場の設営、大仰な開会式の演出などで国威発揚を示し、「ゲルマン民族ファースト」を謳い上げて諸外国へ大アピールし、国民の心情を束にして絞り込んだ。日本はどうかというと、明治維新以降の支配思想により万世一系の皇統のもと、民衆は大和民族優秀という意識を植えつけられ、日清・日露の二つの戦争に勝利したことと重なり、ベルリン大会は日本人に極めて偏重した五輪意識を抱かせるものだつた。五輪と言えば「金メダル・EA」と記した。当時日本は朝鮮を軍事的に統治しており、この問題は軍部・政権による許しがたい暴挙であったのだ。ところで、N HKのテレビドラマ『いだてん』が先年放送され、その中でベルリン大会と同時代のマラソン界を描きつつも、朝鮮民族・孫選手のこの事実を直接的に描くことはしていなかつた。制作関係者が知らぬはずはない。忖度したのか。あるいは他から「力」が働いたのか、闇の中だ。どうあれ、今日の日本人に広く知らせぬ方がよいとの判断からであろう。

一つはマラソンでの「事実」。世

あと一つは大会後の11月に、日本はドイツと防共協定を結んだことだ。その翌年、日本軍隊は中国の南京を占領した。その時点では、後に同盟の基盤となる日独伊三国防共協定を締結していた。

● 1964年東京大会の遺したもの

第二次世界大戦の後半1943年にイタリアが降伏、45年5月にドイツが降伏し、日本も本土は空襲にさらされ、沖縄はさらに悲惨な戦禍の下にあり、とうてい連合国軍と抗戦する力はなかつた。その7月、連合国は日本に対し「ポツダム宣言」をもつて降伏勧告をした。軍部・政権が国家国民の実情をまつとうに見極めて早々に宣言を受諾しておれば、ソ連軍の参戦を呼び込むことはなかつたろうし、2発の原爆による惨禍に遭うこともなかつたのだ。

だからこそ敗戦日本の復興は余計に至難となつた。何より諸々の技能技術を持つ働き手は全く少なかつた。徐々に働き手が復員してきて、それに日本を防共の砦にしようとするアメリカからの経済支援と、50年に起

きた朝鮮戦争による軍需景気とが相乗し、焦土瓦礫の日本列島は急速に国内総生産力をあげ、復興していく

た。

そうして64年に五輪東京大会を開催することにいたつたのだ。この大会は、前述したベルリン大会の様相と類似するところが多くあつた。トランジスター・ラジオ、1万円札、カラーテレビ、高速自動車道、東海道新幹線等々、国民を煽り、国威発揚の様を海外からの客に觀せる条件は整えられ、五輪開会式では自衛隊の戦闘機が上空で演技した。既にこの時期には世界は金メダル競争に入っていた。

大会のメインは、大松博文監督に率いられた女子バレー・ボール「東洋の魔女」の優勝にかかつてゐた。実況放送において、あと1点を取れば優勝という折に「金メダル・ポイント」なる表現が飛び、人々を熱狂させた。回転レシーブを生み出した壮絶な練習、しごき、根性などが強くなる基

本だという風潮をも生み出した。幼い子どもたちまで、五輪と言えば金メダルと口にするほどで、「2位3位、銀や銅」では駄目なのだった。

陸上男子で広く期待を集めたのは

マラソンだつた。自衛隊体育学校出身の三宅義信選手が重量挙げで優勝したこともあり、同じ出身のランナー円谷幸吉選手に衆目が集中した。彼は故障のなか奮闘し、3位でゴールした。以後、次のメキシコ大会をめざして努力を重ねていたが、持病の腰痛が悪化して椎間板ヘルニアを発症させてしまつた。次回五輪開催の68年の1月に、円谷選手は遺書を残し、自死した。新聞で遺書（家族が公開された）を読むことができた老人は、何とも心こまやかで優しい人柄の選手だつたのだなと深く印象づけられたことを覚えている。

IOC（国際オリンピック委員会）は、この黒人選手2人を永久追放処分にした。50年後に世界陸上競技連盟は3人の行動を称え、会長賞を贈った。

1人の選手はその時、「正当な権利を勝ち取るためにアスリートが行動する番だつた。速く走ることや勝利よりも大切なことがある」と語つてゐる。

今次東京大会に臨もうとする若者たちも、五輪を楽しもうとする多くの人々も、右の選手の言葉を、しつかり・じつくりと読み込んでほしい。顔や利権を大事とする「偉い」関係者には老人は全く期待しない。

「今次五輪は中止」と思案をまとめる。

● メキシコ大会——「ブラック・ライブズ・マタ」

1968年メキシコ大会の陸上男

子200メートル走表彰式でのことだ。1位と3位の表彰台に立つたアメリカ黒人選手2人は黒手袋をした手を天に突き上げ、人種差別に抗議した。2位の白人選手も差別に抗議する意味を示すバッジを胸に付けていた。

IOC（国際オリンピック委員会）は、この黒人選手2人を永久追放処分にした。50年後に世界陸上競技連盟は3人の行動を称え、会長賞を贈った。1人の選手はその時、「正当な権利を勝ち取るためにアスリートが行動する番だつた。速く走ることや勝利よりも大切なことがある」と語つてゐる。

今次東京大会に臨もうとする若者たちも、五輪を楽しもうとする多くの人々も、右の選手の言葉を、しつかり・じつくりと読み込んでほしい。顔や利権を大事とする「偉い」関係者には老人は全く期待しない。

「今次五輪は中止」と思案をまとめる。

（たかい ふじろく／「九条の会・三原」共同代表、広島県元高校教員）

歓迎されざる東京五輪は中止すべきだ

今宮憲一

3月25日、聖火リレーが始まった。聖火リレーはベルリン五輪から始まり、その時はナチス・ドイツによつて国威発揚、国際宣伝戦略に利用された。今回、東京五輪では、聖火リレーを福島の被災地から始めることで、東日本大震災からの復興を賑々しく喧伝しようというのだ。

だが聖火リレーは始まると同時に、コカ・コーラやNTT、日本生命等々、スポンサー企業の宣伝カーを先頭に立てたお祭り騒ぎと化した。新型コロナウイルス感染防止などどこ吹く風、ここはかの夢の国かと紛うほどに見物人が密集し、その中心では深紅の集団がマスクも着けず手を振り嬌声を発している。

そういうことなのだ。大会の主役は選手でも世界のスポーツ愛好家でも、ましてや被災地の人々などではなかつた。この聖火リレーは実に象徴的だつた。電通は招致活動の段階

から6億円を超える寄付を行い、それは中立性を前提とするIOC（国際オリンピック委員会）規約に抵触するのではないかと囁かれていた。

2020年東京五輪の内実は、開催地採択の段階から散々だつた。ロビーアクション真っ最中の13年、東京五輪招致委員会から2000万ドル、日本にして2億円超という金額がシンガポールのブラック・タイディングス（BT）社に振り込まれ、同社の口座から37万ドルが国際陸連前会長でありIOCの委員でもあつたラミン・ディアク氏の息子、パパマサタ。ディアク氏の個人口座に送金されたいたと、19年1月、世界中のメディアが報じた。セネガル出身の父ラミン・ディアク氏はロシアのドーピング疑惑もみ消しにも関わっていたとされるいわく付きの人物、20年9月、フランスの裁判所から収賄罪の実刑

判決を言い渡された。息子の方はセネガルからの出国を拒んではいるが、缺席裁判で5年の禁固判決を受けていた。謎のコンサルタント会社BT社の創立者タン・トン・ハン氏もまた、コンサルタント業務などしていない（賄賂なのだから当然）のにコンサル料金として4400万円を受け取つたという虚偽申告の罪で訴追され有罪判決が下された。BT社は東京五輪招致成功後の14年には早々と閉鎖されている。

日本の側からは、やはり電通と当時のIOC（日本オリンピック委員会）会長であった竹田恒和氏の名前があがつた。英ガーディアン紙のインタビューに対して電通は否定したが、BT社は電通系列の子会社であつたと同紙は図示をもつて断定した。20年3月、電通の元専務・高橋治之氏に対し東京五輪招致委から約8億9千万円が手渡されていたらとロイターが

報じた。同社のインタビューに高橋氏は、手土産として父ディアク氏らにセイコーの高級腕時計やデジタルカメラを渡したとした上で、不正なことは何一つなかつたと述べた。招致委員会の口座記録を見れば確かに、セイコー社に対しても（たつたの）500万円が支払われているという。

東京五輪招致ロビー活動での贈賄側の捜査対象の筆頭にあがつたのが、五輪招致委の理事長を務めていた竹田恒和氏だつた。フランス司法当局から、BT社経由でディアク父子に2億3千万を渡した張本人が当時のJOC会長という、絵に描いたような嫌疑がかけられていたのだ。JOC会長でしかも明治天皇の曾孫といふ竹田氏が火だるまになるのはさすがにまずいということか、19年3月、竹田氏は18年以上務めていたJOC会長の職を退いた。その引退会見がわずか7分という、お座なりで聞かれた

ことに何も答えないお粗末な代物であつたことは記憶に新しい。

その席で竹田氏は疑惑への一切の
関与を否定したが、馬術競技でミュー
ンヘンとモントリオールの2大会で

続く。“呪われた”と最初に言つたのは麻生太郎財務大臣ではあつたが、尽きざる悩みの種は、新型コロナの世界的大流行が始まる以前から連錆としていた。

五輪に出場し、その後は慶應大学馬術部のコーチ・監督だつただけの竹田氏が2001年にJOC会長に就任へ、8三回の表ぎを度つて会長に

15年間の長きに渡って会長に就座り続けることができた理由として、何らかの力の存在を考えずにおくことはあまりに不自然だ。氏は慶應幼稚舎からエスカレーターで慶應大学に進学した。この経歴は3歳年上の兄、恒治氏も同様であつて、その同級生に前出の、電通のスポーツ利権を牛耳つていたとされる高橋治之氏がいた。恒治氏を介し2人は旧知の間柄だったのである。恒和氏の後任会長には周知の通り、柔道家で金メダリストの山下泰裕氏が就任した。JOCの歴代会長や役員の顔ぶれをみれば、恒和氏の実績が一際小粒で落ち込んでいることが分かる。

インに「生牡蠣のような」と難癖を付けて贅盤を買った。デザインを新し費用も縮小されて始まつたスタジアムの建設では、過労に起因する精神疾患から現場監督が自殺する事件も起つた。

当初の東京五輪・パラリンピックのロゴもまた剽窃、盗用の疑いでお蔵入りとなつた。近年の甚だしい温暖化から、生命の問題だとまで危惧されたマラソン競技は札幌開催へと変更になり、コンパクトな五輪と銘打つていた大会予算は、コロナ対策も相まって1兆6440億円へと膨

張し、史上最高額の五輪となることが確実となつた。さらに妄言魔神の森前組織委員長は、期待に違わずその度重なる女性蔑視発言で国際社会に顔向けもできない恥をさらした。また今年3月には、週刊文春が、開会式演出責任者の佐々木宏氏が渡辺直美を豚として演じさせるプランを提案していたことを報じ、氏は早々に辞任へと追い込まれた。旧態依然たる暴力、パワーハラ体質を物語る事例にも事欠かない。これら全てに類似りをして利権大運動会をこのまま強行ということになれば、まさしく世も末である。

ワクチン接種も先進国中最も遅れしており、その進展状況は世界全体の平均をすら下回っている。日本という国がこのような体たらくを演じるという事態を、かつて誰が予想し得ただろうか。今や救いはマスク着用と手洗いの励行だけであり、五輪開催時に感染拡大の怖れが払拭されてゐる望みは全くない。

腐敗し堕落した無能な政権が続き、20年近くネオリベ（新自由主義）章頭の馬鹿踊りをしている間に、日本はこれほど情けない国に成り下がつた。世論調査では日本国民の80%超が今夏の五輪開催に反対しており、ボランティアも続々と辞退して、まさに歓迎されざる五輪となつてゐる。いま我が国が本当にすべきことは、スポーツに群がる商業主義、利権の泥沼から袂を分ち、スポーツ文化に対する最大限の敬意をもつて、オリンピック、パラリンピックのあり方に真摯に向き合うことだ。頭を冷やし、国の尊嚴を取り戻しつ人々の命を守るためにも、東京五輪を中止すべきだ。

た。世論調査では日本国民の80%超が今夏の五輪開催に反対しており、ボランティアも続々と辞退して、まさに歓迎されざる五輪となっている。いま我が国が本当にすべきことは、スポーツに群がる商業主義、利権の泥沼から袂を分ち、スポーツ文化に対する最大限の敬意をもつて、オリンピック、パラリンピックのあり方に真摯に向き合うことだ。頭を冷やし、国の尊嚴を取り戻しがつ人々の命を守るためにも、東京五輪を中止すべきだ。

(いまみやけんいち／山口県
高校教員)

原発事故から10年、福島に住んで感じること

大川 清

3月11日で東日本大震災と福島第一原発事故から10年が経ちました。目に見える復興がどんどんと進んでいるかのようになりますが、いまだ多くの人たちが困難な生活を強いられ、決して癒えることのない苦しみや不安を抱えながら生きておられます。

そのような中、3月25日には東京オリンピックの聖火ランナーがコロナ禍にもかかわらず仰々しく福島をスタートしました。安倍前首相が「原発事故はアンダーコントロールした」と言つて誘致し、「復興五輪」と銘打たれたオリンピックですが、原発事故の深い傷跡を覆い隠して事故を終結したことにしてみたい人たちの意図が見え隠れします。

まだ僅か一年ですが、福島に住んで強く感じるのは、地域の人たちも、私の働く教会や保育園児の家庭も、みんな何らかの被害を受けて大きな心の傷を負いながらも懸命に生きておられる姿です。そんな中で私たちが問い合わせなければならぬのは、人間の過信と過失が生み出

した原発事故の被害です。今も多くの方が故郷を追われ、家族さえも散り散りに暮らさなければならなくなり、目に見えない放射能汚染に日々不安を抱えながら暮らしておられます。まさに原発は、あらゆるいのちを危険にさらし、恵み豊かであった山や川、海の自然を奪い、人々が昔から暮らしてきた心のよさがある故郷を奪い、街のコミュニティーも奪つてしまつたのです。

そして今、震災と原発事故から10年を期に様々な支援も打ち切られようとしています。その一つに「学校現場の負担と授業への影響」を理由に子ども達の学校での甲状腺検査が中止されようとしています。この10年、福島県では200名を超える子どもたちの「小児甲状腺がん」(疑いを含む)が発見されています。「もしかしたら我が子が甲状腺がんになってしまふかも知れない」、そんな不安を抱えながら苦しんでいる多くのお母さんたちがおられます。そのような不安を抱えるた

が、口にする食べものと共に、学校の裏庭や子どもたちが日常的に遊ぶ公園の隅など、放射線量が基準値を超えるホットスポットと呼ばれる場所が、今も沢山存続している事実を計測によって知らされます。しかしながら、その事実を行政に訴えてもなかなか腰が重いのが現状です。戦闘機の爆音や米兵犯罪への実効性のある対策が遅々として進まない「基地の街」の現状と全く同じです。

原発事故から10年経つて政府は今、放射能汚染水を海上放出しようと目論んでいますが、赴任してすぐの頃、「この辺りの海は親潮と黒潮が交わる潮目と呼ばれ、豊かな漁場で常磐ものといつて美味しい魚がとれるんだ」と言つて近所の方に魚を頂きました。そんな海に汚染水まで流れではたまつたものではありません。

震災と原発事故から10年、福島に暮らして原発も基地も私たちの命や暮らしとは決して相いれないものであることを改めて強く思はざれています。

(おおかわきよし／福島県いわき市在住、常磐教会牧師)

食品放射能計測所」が併設されています

私は昨年3月まで山口県岩国市で21年間、暮らして来ましたがその間、米軍基

地の拡張強化で街が大きく揺れ動くのを目当たりにしてきました。戦闘機の爆音や米兵の犯罪に苦しめられずに安心して暮らせる街を子どもたちに残したいと多くの人たちと共に声を上げてきましたが、国策に民意がかき消され何度も涙を流したことかしれません。全くのレトリックである日米安保条約によつて米軍基地が存在し、同じくクリーンで安全なエネルギーと騙されて原発が推進されました。本来なら街の未来の為に恵を出し合い、力を合わせて共に歩むべき市民が分断されてしまうのです。「原発の街」の分断はまさに「基地の街」の分断そのものでした。

が、國策に民意がかき消され何度も涙を流したことかしれません。全くのレトリックである日米安保条約によつて米軍基地が存在し、同じくクリーンで安全なエネルギーと騙されて原発が推進されました。本来なら街の未来の為に恵を出し合い、力を合わせて共に歩むべき市民が分断されてしまうのです。「原発の街」の分断はまさに「基地の街」の分断そのものでした。

小出裕章著（径書房 2019年／1600円＋税）

『フクシマ事故と東京オリンピック』 — 真実から目を逸らすことは犯罪』

佐藤定夫

■ オリンピックに国民の目をそらし、フクシマ事故をなきものにする日本／それは決して「なきもの」にはならない、日本を飲みこむ底なし沼だ

イタリア在住の楠本淳子さんが小出裕章（元京都大原子炉実験所助教）に手紙を書き、「フクシマ事故と東

京オリンピック」について書いてほしいと依頼した。彼女は小出の文章を英訳し、世界各国のオリンピック委員会に送った。

径書房はこの文章に目をとめ、7か国語（英、独、仏、西、露、中、アラビア語）に翻訳して出版した。日本語だけなら、20ページ弱、しかも大きな見出しのような活字で印刷されていますから、10分ほどで読み終える分量です。

章が、世界のオリンピック委員会にどのような影響を与えたか、与え得なかつたかについては知らない。すくなくとも日本のオリンピック委員会は100%無視している。

オリンピックを中止し、もてる国

力のすべてをフクシマ事故の終息、事故の犠牲者の救済、罪のない子どもたちを被曝から守ることに注がねばならないという小出の主張は、いまは完全に無視されている。しかし、

事故現場に人間を行かせれば死んでしまう。ロボットで調べようとしたが、命令が書きこまれたICチップに放射線があたると命令自体が書き換えられてしまう。送ったロボットは帰還できない。

東京電力と国は、「饅頭のように堆積している炉心を回収する」当初の方針がまるで無効なので、「格納容器の横腹に穴を開けてつかみだす」なる新方針をだしているが、まったく実行不能。

小出は事故直後から「チエルノブ

イリと同じように、石棺で封じる

かない」と主張していた。政府・原

子力村住民たちは、原子炉溶解（メルトダウン）そのものを否定し、小

出の提言を聞こうとなかった。

となつては、小出の主張以外ありえ

なかつたことは明らかだ（9年遅れ

の今だつてそれしかないのではない



忘れていませんか？
Have you forgotten? Japan is a country that is under the Declaration
of a Nuclear Emergency Situation now and even after 100 years.
「原子力緊急事態宣言」下にあることを
call on to the world, the 2020 Tokyo Olympics must be canceled immediately!
世界に告ぐ! 東京五輪は即刻中止!
English German French Spanish Russian Chinese Arabic

短い文章だが、書かれていることは、とほうもなく重い。
底なし沼に引きずり込まれるような日本の現実が、原子力を専門とする科学者の筆で、淡々と述べられている。この文

● 小出の指摘で、とくに恐ろしいこと二つ

① 8年経った今も、溶け落ちた炉心がどこにどんな状態にあるか分かつていない。

福島第一原発



しかし、この基準は本来、小出もそうであつたような「放射線業務従事者」にだけ認められる基準だ。被曝からなんの利益もうけない人々にこの被曝をゆるすのは暴挙としか言いようがない。まして、赤ん坊や子どもなど、被曝に敏感であり、日本の原子力の暴走になんの責任もない人々にそのリスクを背負わせていいはずがない。

そのいいわけとして「今は原子力緊急事態宣言下にあるからやむをえか」。

溶解した炉心は、日本を飲みこむ、底なし沼であり続ける。

②1年間20ミリシーベルトは本来「放射線業務従事者」にだけ認められる基準。

安倍政権は2017年3月、福島から避難した人たちに対して「1年間20ミリシーベルトを超えない汚染地には帰還せよ」と指示し、避難先での住宅補償を打ち切った。



いまや世間の関心は「コロナ禍と

しかし、この基準は本来、小出もそうであつたような「放射線業務従事者」にだけ認められる基準だ。被曝からなんの利益もうけない人々にこの被曝をゆるすのは暴挙としか言いようがない。まして、赤ん坊や子どもなど、被曝に敏感であり、日本の原子力の暴走になんの責任もない人々にそのリスクを背負わせていいはずがない。

そのいいわけとして「今は原子力緊急事態宣言下にあるからやむをえか」。

溶解した炉心は、日本を飲みこむ、底なし沼であり続ける。

②1年間20ミリシーベルトは本来「放射線業務従事者」にだけ認められる基準。

安倍政権は2017年3月、福島から避難した人たちに対して「1年間20ミリシーベルトを超えない汚染地には帰還せよ」と指示し、避難先での住宅補償を打ち切った。

「原発は安全」と推進した者たちの、誰一人も犯罪者として裁かれず、責任もとらなかつた。オリンピックでフクシマを忘れさせる作戦はまんまと奏功し、原発再稼働がはじまるとしている。

まさに亡国の沙汰です。オリンピックに反対すれば「非国民」といわれる時代がきている。

「罪のない人を棄民したまま『オリンピックが大切だ』という国なら、私は喜んで非国民になろうと思う」という小出の宣言は、読む者の胸に銳く迫ってくる。

● 小出の訴えは、時空を超えて若者に届く

足尾鉱毒事件の田中正造、水俣病の石牟礼道子の告発は、どれほどの月日がたとうと色褪せることがない。

小出のこの告発・弾劾は、思いもかけないほど年月を経て、思いもかけない国の若者たちにも、届く日がくるだろう。それだけの説得力と格調に満ちている。

小出裕章、渾身の告発・弾劾の書に、乾杯。

(さとう さだお／ブログ「呆け天残日録」を運営／昨年12月2日の記事より転載)

沖縄県は南部の土砂採掘を止める行政措置を!

2021/03/14 沖本裕司

●平和市民、宗教者、島ぐるみ 南部が対県交渉

3月9日午後、沖縄平和市民連絡会の北上田毅さんが中心となり、宗教者の会の谷大二さん、知花昌一さん、島田善次さんに、島ぐるみ南部の糸満、豊見城、南風原、南城、八重瀬 合わせて10人が

沖縄県に対し、熊野鉱山をはじめ遺骨混じりの南部の土砂を辺野古埋め立てに使用しないことを求める要請行動を行なつた。県側は、松田環境部長をはじめ、自然保護課長、保護援護課長等が出席した。北上田さんは事前に提出した質問・要請事項で、①熊野鉱山の開発届に対する自然公園法第33条2項を適用し禁止を命

じること、②戦跡等についても「歴史の風景」と位置づけて第33条第2項の適用を求めていた糸満市の意見を尊重すべき、③全国で唯一の戦跡としての性格をもつて、國定公園を保護する必要から、国的一般的な基準に拘束されるべきでない、などを求めている。

環境部長は、「第33条2項の措置命令を出す場合は、きちんと論理的に組み立てなければならない。今後糸満市の考え方、具志堅さんや皆さんのご意見もふまえて検討していきたい。ただ、まだ具体的なところまで行っていないので、県として一生懸命、考えているということしか言えない」と述べた。詳しくはブログ『チヨイさんの沖縄日記』。

●南部の土砂を埋め立てに使うな！ の声の広がり

ガマフヤーの具志堅隆松さんと同志たちによる県前ハンストは、次から次とテントを訪れる人々、多くのカンパと賛同署名、戦争体験者の人々のスピーチ、抗議するカヌーに襲いかかる海上保安庁(上)／埋め立て用ダンプに抗議



各種メディアの取材、国会質問で取り上げられ東京で連帯集会が開かれる、など県内外に熱い共感の輪を広げた。「道義に反する計画撤回を」(琉球新報)、「非道な計画に反対する」(沖縄タイムス)と南部の土砂採取に反対する立場を打ち出した地元二紙も関連記事を書き続けている。

「戦没者の血のしみ込んだ遺骨混じりの土砂を辺野古の埋め立てに使う事は戦没者への冒涜である」という主張は、今や県民の総意である。3月11日、退任した富川副知事の後任として新たに副知事に就任した照屋義実(オール沖縄会議共同代表も務めた)はインタビューで、「遺骨を含んだ土砂を辺野古の埋め立てに使つてはいけないという声は大きい。新しい規制の枠組みが合法的にできれば、と考えている」と述べた。

沖縄県の自民党と公明党も3月10日、沖縄防衛局を訪れ、「南部地区から遺骨混入の土砂の使用は人道上許されない」「県民感情への配慮を求める」要望書を手渡した。沖縄防衛局の田中局長は、「遺

骨の問題は重要だ。土砂の調達先については検討したい」と答えたという。日本政府の立場も同様だ。遺骨を埋め立てに使つていいとは決して言えない。しかし、遺骨収集は、「採石業者において適切に行われる」とくり返すのみである。ということは、ある程度の作業と時間をかけたのち遺骨収集は終わつたとして土砂搬出に進むというのが政府・防衛局のプランだろう。

しかし、この政府・防衛局のプランに県民・遺族たちは納得しない。沖縄戦犠牲者の最後の場所、流された血、引き裂かれた肉体、碎けた骨―戦争の記憶は南部のあらゆる場所と結びついている。遺骨収集には終わりがない。

●業者の拝金主義を生む

元凶は国策強行

魂魄の塔の横に位置する熊野鉱山の業者は3月4日、琉球新報のインタビューに答えて、「遺骨が混じっている表土は剥離し最後に埋め戻しに使う。出荷するのは表土の下の琉球石灰岩、遺骨が混じった表土を出荷することはない」と述べ、「埋め戻したあとには果樹と桜を植える」と答えた。これならどうか。やはり、県民・遺族は納得できない。全国で唯一戦跡として国定公園になつている南部の糸満・八重瀬地区の景観は別の物にすり替えられる。県民・遺族が求めているのは、現

状のそのままの姿で保全することである。

さらに、ひめゆり学徒隊の最後となつた荒崎海岸の海岸線に沿う場所で、大鉱東里鉱山が無届けで大々的な採掘をしていることが明らかになり、沖縄県は業者に中止を指示した。この業者は、2019年に沖縄防衛局が実施した辺野古埋立てに提供可能かどうかを問うアンケートに、可能と答えている。熊野鉱山といい東里鉱山といい、金のためなら辺野古埋め立てと戦跡公園の破壊も気にしない。県民全体にとって価値のある自然・歴史を保全するより個人・会社の利益追求を優先する採石業の在り方に根拠を与えていたのが政府・防衛局である。破綻した辺野古新基地建設のための埋め立てを金に目をつけ強行する国策が、こうした業者の拝金主義を生んでいるのである。元凶は国だ。

●沖縄県は自主的な自治の実行を！

元凶は国策強行

●「島ぐるみ八重瀬」が

「島ぐるみ八重瀬の会」は3月9日、沖縄県議会に「辺野古の埋め立てに南部の土砂を使用しないことを求める陳情」を、町内の4か所の鉱山の写真を資料として添付し、提出した。陳情書は「沖縄防衛局の土砂採取計画はあまりにも無謀で危険」と指摘し、①南部からの土砂採取に反対、②沖縄戦跡国定公園内の土砂採掘を禁止する県条例の制定、③熊野鉱山の採掘の中止、④八重瀬鉱山の点検と実地調査、を求めていた。また、「島ぐるみ会議・南風原」も3月4日、①遺骨

や業者による提訴の可能性も考慮しなければならないだろう。しかし、県民の多数が望んでいるのは、そのような誇りある自主県政に違いない。

官僚とのあつきも強まるだろうし、中央の政治家・

政治にどこまで立ち向かえるのか。1999年の「地方分権の推進を図るための関係法律の整備」以後も継続する中央政府による地方支配に対して、地方自治体として沖縄県が独自の立場で自主的な自治を実行することができるか、ということが問われている。当然、国の解釈とは異なる県独自の法令解釈が必要となり、場合によつては県条例の制定といったことが求められるだろうし、中央の政治家・

とが問われている。当然、国の解釈とは異なる県独自の法令解釈が必要となり、場合によつては県条例の制定といったことが求められるだろうし、中央の政治家・

が、八重瀬町内にも①八重瀬岳の公園野球場に隣接する八重瀬鉱山（富盛）、②与座岳の航空自衛隊巨大レーダー下にある大里碎石東風平鉱山（高良）、③40m掘り下げられた第2丸真コーラル鉱山（仲座）など4か所ある。以下、八重瀬鉱山の部分を紹介する。

〈島ぐるみ八重瀬の会の陳情書〉

八重瀬岳一帯は沖縄戦で日米両軍の激戦地となり、多数の軍人と民間人が命を失いました。住民の避難壕が沢山あり、

中腹には白梅学徒隊が勤務し撤退にあつた重傷兵が青酸カリや銃で死んだ第24師団第一野戦病院壕があります。現在、八重瀬公園として整備され野球場や桜まつりの会場にもなっています。

ところが、公園野球場に隣接して八重瀬鉱山があります。長らく休業していましたが、昨年から再び稼働し始めました。富盛の大獅子の伝説にあるように古来聖地とされて来た八重瀬岳、沖縄戦の戦跡となつた八重瀬岳は石灰岩採掘で破壊されることはなりません。小中高生の遊びの場、市民の憩いの場の安全の上でもたいへん憂慮されます。八重瀬鉱山の点検と実地調査を求めます。

（おきもと ひろし／「島ぐるみ八重瀬の会」事務局長等）

政府の圧力に屈さないよう学術会議を支えよう！

小寺 隆幸

を理解していただることが重要という問題意識で設定されたのだろう。だが10名の講演、さらに若手研究者によるパネル討論という構成はあまり

菅首相による日本学術会議会員6名の任命拒否から6か月たつた今、政府による居直りと学術会議改革への圧力が続いている。任命拒否自体の問題点については本誌434号に、その狙いや自民党の学術会議改革案の問題については437号に記した。本稿では、4月21日の学術会議総会に向けてなすべきことを提起したい。

▼政府・財界から改革への圧力とデュアルユース容認要請

2月27日、日本学術会議は、コロナ禍や気候変動などの危機の中で、地球環境と人類社会の調和ある平和的な発展への貢献を社会から負託されている存在であるアカデミーはいかにあるべきか」を議論する学術フォーラム「危機の時代におけるアカデミーと未来」をオンラインで開催した。それは任命問題で社会的支持を広げるためにも学術会議の活動

主な講演要旨をタウンホールで見る）
最大の問題は、井上科学技術担当大臣に講演を依頼したためか、学術会議側から任命拒否問題に一切触れなかつた点にある。そして井上大臣は「多くの会員の懸念は理解している」などとぬけぬけと語つたのである。冗談ではない。「懸念」どころか、学術会議総会決定として抗議と撤回を要求している。対面であればヤジと怒号で遮られたに違いない。
そして、井上大臣は学術会議に①

A I 等の応用分野が広がる中、その一つである防衛への転用のみを特別に警戒することは産業競争力にも影響する（須藤内閣府政策参与・東芝嘱託）「デュアルユースを否定するのではなく、有益な技術を有効に管理するための枠組みやルール作りに取り組んでほしい」（篠原NTT会長）。学術会議側が開かれたフォーラムとするために政財界を招き、紳士的に対応しようとしたのをいいことに、彼らは土足で踏み込んできた。学術会議はここで議論を避けるべきでは

なかつた。井上大臣の直後に国際学術会議ダヤ・レディ会長は「ナショナルアカデミーの役割—独立性と助言機能」と題して講演し、「深刻な倫理的問題にもつながりかねない科学の劇的な発展に主体的に関与」することの重要さを語り、続いてスミス英國王立協会会長も「科学者が独立性を保ち、透明性と公開性を維持することが大切」と指摘したのである。これを受けて、国際的な常識としても任命拒否など考えられないとする。またデュアルユースの問題も、産業界の発言を聞き流すのではなく、「平和的な発展」を阻害する軍事研究を倫理問題としてもとらえ、主体的に関与することが学術に問われているのであり、産業の論理を押し付けるべきではないと釘を刺すべきだった。残念ながらそれがなされず、政府や財界の一方的見解が垂れ流される場

になつてしまつた。

▼任命問題は終わつたと
改革への圧力を強める

フォーラム後、梶田会長は井上大臣に改革の方向性を3月下旬にまとめる方針を伝えた。だが3月23日に梶田会長は井上大臣と再度会談し、素案作成が遅れ4月8日の幹事会で

井上大臣は、遅れをなじり、4月上旬に素案を示すよう求めたのである。（東京新聞デジタル3月24日で会談及び井上大臣記者会見映像を見よ。）
<https://www.tokyo-o-np.co.jp/article/93553>

▼日本学術会議を支える

運動で合計20万名が署名している。誰が見ても理不尽な政府のやり方に毅然として対応することでさらに対事が広まる。逆に、ここで妥協しては多くの人々が日本学術会議に失望しかねない。権力の違法な圧力に抗しうるのには、理的に筋を通すことしかない。その上で学術会議の改革は、昨年12月の中間報告を基礎に学術会議が学協会などとともに自主的に入を許してはならない。

そもそも現状の設置形態を変えねばならない理由は全くない。広渡清吾元学術会議会長がこう記している。「学術会議法が国の機関とした趣旨は、社会経済的な利害からの独立を、公財政によつて保障することである。他方で政治権力、政府からの独立保障のために、職務の独立性を明文で規定し、かつ、会員選考の自律性を確保した。ここには、新憲法の下、戦後日本の国家が学問の自由と科学者コミュニティの独立を民主主義に必須のものとして擁護する志が示された」(広渡清吾「科学者コミュニティと科学的助言」『世界』2月号所収)。

このように日本学術会議は憲法23条を実質化させるものとして設置された重みを有する。日本学術会議を独立法人化することは、憲法理念を空洞化せるものである。この鬱いは学術の世界にとどまらず、憲法を守るのか、改憲して戦争ができる国にするのかというせめぎあいの現段階の焦点に他ならない。そのことの重大性を声を大にして訴えたい。

今、6名の任命拒否がボディブローのように効いている。6名がいれば学術会議の中から政府に断固たる発言をされていたに違いない。だから

こそ政府は彼らを排除し、学術会議を弱体化した上で圧力をかけているのである。それに対して、私たちはずつと学術会議を支える市民の輪をさらに広げねばならない。ぼろぼろになつた菅政権がこれ以上学術会議に手を出せないよう、昨年10月を上回る大きなうねりを創り出そう。10月に始まつた署名運動は短期間に14万余の賛同を集めた。だがその後も任命拒否が撤回されない中で、97歳の元学術会議会員の増田善信氏が立ち上がり、「黒い雨」問題で今も精力的に発言する氏は、気象専門家として戦争に協力した自らを反省し、軍事研究に反対する声明を出した日本学術会議を何としてでも守らねばと一人で署名運動を立ち上げられた。署名は5万人に近づいている。

4月19日に私も増田氏と共に内閣府に署名を手渡し皆様の思いを伝えます。署名締め切りは15日。菅首相が青ざめるほどの広がりになるように、皆様も地域で、職場で呼びかけていただくことを心からお願いします（署名サイトは“Change”日本学術会議総会で検索してください）。（こでらたかゆき／軍学共同反対連絡会事務局長）

上関原発いらぬ！フクシマを忘れない！

—山口県上関町の中電準備事務所前で集会—

三 浦 翠

福島第一原発事故発生からちょうど10年を経た3月11日、「上関原発を建てさせない山口大集会」に代わる、山口県東部の集会（主催・東部地域実行委員会）が上関町の中国電力上関原発準備事務所前の路上で行われた。来てみてびっくり、こんなにたくさんの人が！という驚きで、参加者100人の集会は熱い興奮の中で

はじまった。

中電事務所前の海沿いの道の路肩はぐるりと人の列で埋まり、その中央に小中進さん（同実行委事務局長）のスピーカー付き軽バンのスナメリ号。林立する旗は、小中さんが毎朝立ちの時に立てている「子供たちの為『上関原発』いらぬ！ ふるさとを守るのは私達の責任」の旗。

午後2時半、小中さんがマイクを握り「フクシマの思いをしつかりと受け止めて上関原発を止めて行きましょう！」と。地震発生の2時46分、海を背にして福島の方角にみんなで1分間の黙祷。

ついで「原発いらぬ福島の女たち」の黒田節子さんからのメッセージを下松市の河本文江さんが朗読。その中で黒田さんは、上関町祝島の皆さんのがく激しい鬨いへの共感の思いを伝え、「今、福島では、国とマスコミが一体となつて安全・安心キャンペーンを行つて原発事故の影響を消し去ろうとしている。子どもたちの甲状腺ガンとの疑いが252人



中電上関原発準備事務所前での反原発集会（筆者提供）

にもなったのに、原発から出た放射線の影響を認めない。さらに今一番の問題はコストのみを優先した汚染水の海洋放出の件。これはやつと立ち直りかけている福島の漁業者への二重の打撃となる。県内の自治体も全国の漁協も反対しているので、現在計画は先延ばし状態。私たちも祝島の皆さんのがくに学んで決してあきらめず声を出し続ける。共に頑張りましょう！」と。

つづいて、福島県いわき市の大川清牧師からのメッセージを、岩国市「愛宕山を守る会」代表の岡村寛さんが朗読。大川牧師は米軍岩国基地をめぐる鬨いに永年情熱的に取り組まれ、1年前、いわき市の教会に転勤。そのメッセージを、午前中の「守る会」の定例座り込みを終えてマイクロバスで駆けつけて下さった皆さんの前で、代表の岡村さんが読まれるという感激的な場面だった。そのなかで大川さんは、「こちらでは放射能汚染のこととは言うなという暗黙の圧力があり、基地の町・岩国と同じ住民の分断を感じ

る。子どもたちが遊んでいるすぐそばに放射線量の高いホットスポットがある」などを語つておられた。

連帶メッセージは、「若狭の原発を考える会」の木原壯林さんや韓国の「核廃棄のための全国ネットワーク」からも寄せられた。

その後、戸倉多香子県議、仲山哲男・光市議、赤松義生・平生町議、岩国市の松田一志さんなどから、上関原発を建てさせないようがんばっていくという決意表明があつた。

「上関原発いらんよね、光・下松市民の会」から那須圭子さんが、「福島では今も『非常事態宣言』が出されたまま。これを解除すれば、市民の年間被ばく限度は1ミリシーベルトになる。そうなると、福島の汚染地帯に今住んでいる人は、また避難しなければいけなくなる」という話があつた。

（みうら みどり／「原発いらん！」

山口ネットワーク 事務局

【編集部注】「上関原発を建てさせない

山口県民連絡会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年につづき「山口大集会」を中止し、代わりにこの上関集会のほか県内5カ所で3月中に集会を行うとともに、「さよなら上関原発ネットパレード」を実施した。

「ガラパゴス」状態の日本のデモが暴政継続許す（3）

豊 島 耕 一

（前号よりつづく）

●逮捕の問題

西欧などの民主主義国の場合、平和的なデモで逮捕されても一晩で釈放されることが多い。実際筆者の経験でも、イギリスの核兵器基地のゲートの封鎖行動の時も、私も含め逮捕された日本チームの全員が1日以内に釈放された。これに対し日本では、警察はなんと最長で23日間も留置であります。実質的な禁固刑で、実生活にも重大な影響を及ぼし、よほどの覚悟がないと逮捕のリスクは受け入れられない。そして、このことで権力は市民への威嚇の効果を發揮し、市民は「デモ」と呼ぶに値するような社会に影響を及ぼす行動の自由を阻まれている。したがってこのような状況を変えない限り、市民の抵抗や表現形態の多様性やパワーは獲得できない。

そのためにはやはりパイオニア精神が必要で、市民が逮捕を恐れなくなれば権力は初めて市民の力を恐れるだろう。「3・11」直後に原発反対のデモが盛り上がった時、「デモで社会が変わるのか」という問い合わせとして柄谷行人氏は、「デモをすることで『人がデモをする社会』に変わる」と述べたが、その言い方に倣えば、「人が逮捕を恐れない社会に変わる」ことが重要だ。つまり警察官の命令を「法」と勘違いしている人を減らす必要がある。大規模デモで逮捕者がその数が膨大であれば、その逮捕者を収容する留置場の確保が困難になる。いわば「みんなで逮捕されれば恐くない」のだ。人々が逮捕を恐れなければ、権力は人々を恐れる。実際私が関与したイギリスの反核運動の場合、あまりにも逮捕者が多いためまともに勾留・裁判に回したら司法システムが麻痺するので、逮捕は「キヤツチ・アンド・

リリース」のゲームになっていた。そのおかげで日本チームの留置も一晩で終わったのだ。

しかし、日本ではすぐにそのような状況になることは期待できず、逮捕されれば長期間の拘留は覚悟しなければならない。職を持つ人が通常受け入れられるようなりリスクではない。しかし現在、私も含めてかつて「大学闘争」などを経験したベビーブーマーたちが退職し、大量の「自由人」の集団が存在する。家族に介護など保護が必要な人をかかえていないなど、リスクを受け入れられる人たちも少なくないだろう。

非暴力の社会運動における「逮捕」は、しばしば、法律や憲法の解釈をめぐつて、行動する市民と警察官の間の意見の違いによるものである。警察官は外形的事実で判断をせざるを得ないのであって、その警察官の命令を「法」と勘違いしてはならない。最終的には司法が決めるところになるので、行動する市民の側も、もし警察に咎められれば逃げ隠れしないことが重要だ。たとえ非暴力であっても、直接行動は逆に民主主義への挑戦として悪用もされうる「両刃の剣」であるからだ。

道路占拠などは違法行為ではないのか、という人がいるだろう。確かにその通りだが、道路の使い道が交通だけではないことは、祭りの時などには明らかになる。ノーマルな手続きを取りなければ通常は違法だが、必要性、正当性との兼ね合いで判断されるべきだろう。民衆の表現手段として緊急止むを得ない場合もあるのだ。

昨年来の新型コロナウイルスのパンデミックの中、街頭での集団行動は感染の危険が伴うが、同時に「表現の自由」の制限は必要最小限なければならない。これらを両立させるためには、ソーシャルディスタンス・デモ、つまり大通り一杯に散開して行進する形態が必須である。むしろ、これを「本来の」デモの姿を取り戻す機会にすべきだろう。

●変化を起こすには

先に述べた「トライアングル」（前

号参照)による支配構造のロック状態を解除するにはどうすればいいのだろうか。もちろん最終的には選挙によって「真に」国民の利益を代表する議会を作らなければならない。問題は、選挙に集中するだけで選挙に勝てるか、ということだ。筆者の意見では、単に選挙時にキャンペーンをするだけでは勝ち目は少ないといふものだ。自民党など支配政党は、前記ダイアグラムの太い破線で示した圧倒的な宣伝力で、日常から明示的・暗示的にプロパガンダを行つてゐるのであり、その形式も言葉によるあからさまな政治的メッセージとマやワイドショーでのさりげない発話なども含め、文化全体に染み込ませて国民に届けられる。電通などはこれに大きな役割を果たしているだろう。対抗勢力がこれと同じ方法で立ち向かうのは困難で、事実上不可能だろう。

これに対抗しうる民衆の行動形態は、古今東西を問わず「直接行動」である。労働の対価の「公平な」評価の前提である労使の力のバランス、その有効な手段となるのも、組合活動における直接行動すなわちストラ

イキである。一般的な市民運動で集団意思を強く表現するのはデモや集会だが、今の日本のメディアは、たゞ大規模な集会であつてもニュースに上げないか、もし扱つたとしてもせいぜい豆記事で、些細なものに分類、つまり「マージナライズ」してしまう。これを、いわば強制的にメディアに乗せるには、大通りを占拠するなどの非暴力の直接行動が必要である。

先に例に挙げた、メディアに事實上黙殺された2019年5月の東京の6万人規模の護憲集会だが、もしこれを「防災公園」ではなく数寄屋橋交差点を占拠して行ついたら、人目にもついたはずだし、交通にも影響を与えるのでメディアも無視できなかつたはずだ。

このような直接行動の効用は、單にメディア露出だけではない。参加者自身の「エンパワーメント」も大きな要素だ。大通りを占拠することで人々は祝祭的な開放感を得る。そのようなイベントがすぐに要求の、たとえ一部でも、実現に繋がるといふことは殆どないだろうが、少なくとも実社会にインパクトを与えたという充実感は残る。そして、直接行

動の民主主義における役割を理論化したマイケル・ランドルによると、本来の要求実現に「たゞ成功しなくとも、また部分的にしか成功しない場合でも、集団行動をとる集団内に発生する団結した力は個人や集団の自信と自尊心を増進」するのである。わかりやすい話が1000人で行進して大通りを占拠、交通を1時間止めたという一つの達成感である。行儀を偏重する日本の市民運動はこのような行動を嫌いするだろうが、それが表現の幅を狭めていることに気づくべきだ。一般の人には無作法と見られるだろうが、同時に集団の決意の強さも伝わるはずである。

人々に伝えるべき「メッセージ」は、單に文字で置き換えられるものだけではなく、参加者の決意や覚悟も重要な要素だ。大通りを占拠することにメディア露出ではない。参加デモでは逮捕のリスクを冒してでもN V D Aの領域に進出し、世間のデモに対する相場観を変えることが大事だ。それによってデモが真に政治的パワーを獲得し、暴政を止め、ひいては社会の変革につながる。逆に現状を放置すれば、最近のキナ臭い状況を考えれば、最後には戦争に行きつくかも知れない。(おわり)

(とよしま こういち／元佐賀大学 理工学部教授)

※筆者注はやむなく割愛しました。

『アーランの歌』再考（6）

吉留昭弘

（前々号よりつづく）

（一三）

●トロツキーの暗殺

一九四一年八月三一日、スターリンが放つた下手人によってトロツキーが暗殺された。

トロツキーは、世界の労働者階級を側面から援助する醜態を演じている矢先のことだった。トロツキーは堕落してボーランドを侵略し、ナチス・ドイツと野合している。

「私は第四インターナショナルに属していないし、これまで一度も属したことにはなかった。私はその活動とは一切無縁である。しかし、スターリンはプロレタリアートの大義がこうむらなければならなかつた裏切り者たちの中で最も忌むべき奴であり、最大の悪党であると思う。」

そして、精神的にまた道徳的に正気であれば、いかなる人間も、この腹黒い人間が犯した一連の犯罪、詐欺、卑劣な行為、事実と思想の捏造のあとでは、スター

リニストであり続けることはできないで

メキシコシティにあるトロツキーの墓



た第三インターナショナルに代えて第四インターナショナルを結成し、これに抵抗しようとしていた。スターリンのトロツキー暗殺計画は、『KGB・衝撃の秘密工作』（バヴエル・スドプラトフ著）に暴露されている。

メキシコの古参革命家F・ザモラは、トロツキーの死を悼んで、次のような文章を残した。

「自分が自覚を抱いてからの四三年間の生活を、私は終始革命家として過ごしてきた。そのうちの四二年間を、私はマカルクス主義者として、弁証法的唯物論者として、したがつてまた一徹な無神論者として死ぬこととなるだろう。人類の共産主義的未来に対して抱く私の信念は、その激しさをいさざかも減じてはいない。反対に、今日、青年時代以上に、より強固なものとなつてゐるのだ。」

恰度いま、ナターシャが入ってきて中庭に面した窓のところに行つた。私の部屋に風がもつとよく入るように、窓を大きく開けたのだ。庭に沿つて広い帯のようにになつた草の緑が見える。壁の上には澄み渡つた青空がそして全てに降り注ぐ陽の光が見える。

人生は美しい。未来の世代に属する人々が、人間の生活から、全ての悪、全ての抑圧、全ての暴力を拭い去り、そしてそのすべてを享受するようにならう。

一九四〇年二月二七日

ヨコアカンにて、L・トロツキー

トロツキーは、いついかなる時でも、未來への希望と若い世代への期待をけつして忘れるることはなかつた。

(一四)

●「スターリン政治体制」の特徴

トロツキーを暗殺しソ連を「収容所列島」に変えたスターリニズムのすなわち「スターリン政治体制」とは、いつたい何者だつたのだろうか。それは、どこから、どのようにして産まれてきたのだろうか。いまやこの問題に解答を出さなければならぬ。

「スターリン政治体制」は突然天から降つたわけではない。それはロシア革命の中から、ボルシェビキ党の中から産まれてきたのである。

ボルシェビキ党の中心にあつたレーニンの思想・理論の中では、いくつかの重要な問題でマルクスの思想・理論と異なるところがあつた。

その一つは、彼が強調していた中央集権主義の党組織論である。それらは「なにをなすべきか」「一步前進二歩後退」の中に示されている。しかし、それは前近代のブランキストの組織論の系譜を引くものだつた。マルクスやエンゲルスは、これらの組織論は近代のプロレタリア運動にはふさわしくないとして批判している。なによりもそれは、プロレタリア運動にとつてもつとも不可欠な民主主義を欠いていた。

レーニンのいう上意下達の党組織は、二階建ての建物にたとえられる。二階には中央委員会や政治局などの中央組織が居る。一階には、全国の党書記や党員大衆が居る。重要な決定は二階で行われ、それが一階へと伝達される。一階の全国の党書記や党員大衆は上級の決定に対し異論を提起することもできなければ、質問もできない。ただ党規律に従つて組織の歯車とねじ釘になるだけである。ここから、本来平等であるはずの党員の明確な差異が生じる。こうして中央集権主義は必然的に上意下達の官僚主義を生み出し、さらには代行主義をも生み出す。

代行主義の最たるもののは、共産党による労働者民衆の代行である。民衆組織の共産党による代行が解り易い例証である。公安警察や国家権力機構は労働者民衆の下に置かれるべきものだが、それが共産党によつて代行される。こうして国家権力機構は労働者民衆の手から離れていき、ついには労働者民衆に敵対するまでにいた。

党組織の中でも代行制が進行する政治局が重要事項のほとんどを決定するようになり、中央委員会はその承認機関となつていく。次には政治局内での代行制が進む。政治局内のある有力者への権限が集中するようになり、ついにはこの有力者の個人独裁が進行する。こうして政治局の独裁者が全党を束ね代行することとなる。個人独裁の完成である。

まだ、社会民主党の時代であつた時期の一九〇四年に、トロツキーはレーニンの中央集権主義路線に対する強い疑問を提起していた。レーニンの中央集権主義路線に基づけば、中央委員会を政治局が代行し、政治局の独裁者が政治局を代行することになるという。このような結果として、プロレタリアートの独裁権力はプロレタリアートに対する独裁権力に変わることになる。一九〇四年にはまだ推論として提起されたものが、二〇年後には現実のものとして現れたのだった。レーニンもトロツキーもこの左翼日和見主義の潮流に押し流されてしまった。これは二〇世紀のプロレタリア革命が蒙つた最初の悲劇だつた。

もう一つの問題は、社会主義の過渡期の問題についてだ。この問題については、本稿の(3)の(注3)において述べているので重複は避ける。ただ一八七五年三月二八日付のエンゲルスのベーベル宛に書いた手紙に関して、簡潔につけておきたい。

『ゴータ綱領批判』については、マルクスとエンゲルスの二つの手紙がある。マルクスの手紙は有名だが、エンゲルスの手紙の方はこれまであまり触れられることがなかつた。ゴータ綱領はドイツ語で書かれている。

これは、将来の国家に「人民國家」を樹立するという国家迷信者らへの厳しい批判だつた。将来の社会とは、抑圧も搾取もはや存在しない将来の社会主義社会である。

会のことだ。そこにまた「自由国家」「人民国家」を樹立するという。社会主義社会にはもはや国家は存在しない。国家の存在する経済的基礎は消滅しているというのがマルクスとエンゲルスが一貫して主張してきた主張だった。かれらはいささかも「國家びいき」ではなかつた。アイゼナツハ派はこの提案を無視したし、レーニンは間違つた解釈をし社会主義社会にも国家組織〔プロレタリアート独裁の国家〕がまだ存在すると主張したのである（レーニン『国家と革命』第五章「國家死滅の経済的基礎」）。

「國家と革命」という著作はマルクスの国家学説を継承した良書として世界の多くの人々に読まれてきた。しかし、右のような欠陥も有しており、それらがボルシェビキ党内の左翼日和見主義的傾向を助長したことはまぎれもない事実である。それは、後に中国共産党にも引継がれ、毛沢東による「社会主義社会における階級闘争」「社会主義のもとでの継続革命」としてあらわれた。トロツキーの「永続革命」論と毛沢東の「継続革命」論とは、根本的に異なるものだ。

「スターリン政治体制」とは、スターリンの独裁者を産みだす党システムを指している。この党システムの下では、独裁者は党組織を代表するものであり、その決定は死ぬまで生き続ける。このシステムの下では、異論は許されず、肅清の

対象となる。党肅清なしにはこの体制は成立しないのだ。そしてこのシステムは必ず個人崇拜を伴う。個人崇拜なしにまた個人独裁は成立しない。

スターリン政治体制下のコミニンテルンで辛酸をなめた中国共産党の陳独秀は、自らの体験にもとづいて経験を総括し、ボルシェビキ理論はスターリン主義を胚胎したと論断したが、ボルシェビキ理論とは「レーニン主義」を意味していた。

（一五）

●中国革命と肅清問題

ソ連の独裁体制下では、肅清はスターリン—ベリヤという関係下で断行された。中国においては、毛沢東—康生という関係でうまれる。康生は毛沢東の最晩年まで活動し、人から非常におそれられる人物である。

『アリランの歌』覚書の中で、金贊汀は康生の一九三七年までの略歴を次のように記している。

康生はいうまでもなく、中国共産党政権の特務機関の創設者の一人である。

康生は一九二四年に中国共産党入党したが、そのわずか二年後から党の特務機関である政治保衛局の仕事に足を踏み入れている。その後ソ連に派遣され、ソ連の秘密警察機関であるG·P·Uで基礎

訓練を受けた。一九二八年に初めてソ連を訪問した康生は、その後一九三五年まで滞在していた康生は、当時やはりソ連の秘密警察で訓練を受けた。

一九三七年一二月二九日、帰国した康生たちを迎えた延安では、ただちに政治局会議が開かれ、新しい機構と指導部が決められた。この時康生は政治保衛局の長として指導部に加わった。

康生は三八年からさつそく活動をはじめ、その最初の対象者とされたのがおそらくキム・サンであったと思われる。康生のソ連式の「疑わしきは肅清せよ」に従つて、肅清されたのである。四二年から

延安整風運動では、北京大学出身の王実徳（シーテック）が延安の党官僚主義を批判した（『野小百合』を書いた）としてトロツキストの嫌疑で康生によって肅清されている。

中国で肅清が本格化するのは、四九年一〇月の中国革命勝利後である。それは、おそらくソ連邦を上廻る膨大な数にのぼると思われるが、民衆側の餓死者や肅清者は未だにあきらかではない。

以下、胡風反革命集団事件、「百花斎放・百家争鳴」（双百）と「反右派闘争」、「大躍進・人民公社」運動、プロレタリア文化大革命事件、八九·六四天安門事件など特徴的な事件をとりあげ、その特徴を記したい。

同じ時期、一九三六年は中国では世界がN·K·V·Dであった。

康生は、そんな時代のソ連で、肅清遂行担当者であったN·K·V·Dで訓練を受けていたのである。

康生は、そんな時代のソ連で、肅清遂行担当者であったN·K·V·Dで訓練を受けていたのである。

康生は、そんな時代のソ連で、肅清遂行担当者であったN·K·V·Dで訓練を受け

リーンは康生たちを送り返すためにツボレフT·B·3爆撃機を延安まで飛ばし、高性能の無線機や対空機関砲などを中国紅軍への賜物として、持たせた。

一九三七年一二月二九日、帰国した康生たちを迎えた延安では、ただちに政治局会議が開かれ、新しい機構と指導部が決められた。この時康生は政治保衛局の長として指導部に加わった。

